

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	唐津市立厳木中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 充実した取組が行われているが、今後さらに工夫して全職員で子どもに寄り添った指導を実施していきたい。特に、学習面については、授業への意欲がある生徒が多いが、基礎・基本の定着や思考力・判断力・表現力については、十分とはいえない。 今年度より小学校と併設したことを機会に、小中で継続した学習指導や家庭学習を行い、更なる学力向上つなげていきたい。また、生活面でも小学校と連携した取組を充実させ、子どもたちの自己肯定感を高める手立てを工夫していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	夢にむかって 学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに 未来を拓く 厳木小中学校～
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上」 小中併設校として9年間の系統性を意識した授業展開や発達段階に応じた課題の工夫に取り組み、生徒の学習意欲の向上を図る。 「社会性の育成」 生徒一人ひとりが活躍できる場を設け、出番、役割に対する承認を意識した教育活動の展開を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。 「特別支援教育の充実」 個に応じた支援の実践とユニバーサルデザインの観点を踏まえた環境整備
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究及び校内研修の充実 ○家庭学習を充実させるための取組 ○生徒の学習状況や課題の把握 ○「知識・技能」の定着を目指した取組 ○「思考・判断・表現」の向上を目指した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員の研究授業の実施。 ○家庭学習の時間について、1日あたりの各学年の目標時間を達成した生徒が70%以上 1学年:1時間30分 2学年:2時間 3学年:2時間30分 ○各教科ともQテストの1回目の合格率が50%以上になる。 ○学期末テストや実力テストにおいて、「知識・技能」は70%以上、「思考・判断・表現」は60%以上の生徒が到達基準を超える。 ※到達基準は過去の学習状況調査の問題等を基に各教師で設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で校内研究に基づいた授業実践を行う。また、全職員が年1回の研究授業を行い、授業の改善を図る。 ・Qフレンズと自学ノートの取組の推進 ・生徒会による家庭学習を充実させるための取組(家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成・実施) ・NINOや学習状況調査、各実力テストなどの分析により、生徒の学習状況や課題を把握する。 ・QタイムとQテストの実施 ・各教科において、「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業を計画的に実施する。 			
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校生活の中で相手を肯定する言葉掛けをしたり、態度や行動を取り組んだりすることができた。」と回答をした生徒80%以上 ○職員に相談しやすいと感じる生徒率80%以上 ○学校が楽しいと感じる生徒率80%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている。」について肯定的な回答をした生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の人権教育アンケートを実施 ・学級担任への「道徳の時間」や学級活動の指導案等の提案 ・「認め合い活動」の推進 ・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 ・6月と11月に担任との教育相談週間を実施(教育相談週間のみではなく、いつでも生徒の話を聴けるような関係性の構築と雰囲気づくり) ・全職員における生徒指導の体制作り ・生徒の観察から得た情報や家庭・教師・生徒からの情報等を全職員で共有し、学校生活のあらゆる場面において、生徒に承認する言葉をかけていく。 ・学活や総合的な学習の時間を中心に、生徒の視野を広げる活動に取り組ませるとともに将来について考えさせる時間を確保する。 							
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○健康意識の向上と体づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食喫食率95% ○「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○体力・筋力が向上したと考える生徒が85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」のチェックシートを活用して基本的な生活習慣を身に付ける。 ・食についての実態調査を実施する。 ・新体力テストの実施 ・体育の授業前に補強運動(筋力トレーニング)を実施。学年ごとに負荷・強度を上げていく。 							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できた教職員80%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・県下一斉部活動休業日(月の第3日曜日)と週2日の部活動休業日を徹底する。 ・水曜日の定時退勤実施の推奨 ・年休取得を促進するため、ハースデー年休の取得及び長期休業中の年休の積極的取得を推奨する。 ・学校行事や会議等を随時見直す。 							
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の専門性と意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に関する研修会の実施 ・事例の共有を行い、その対処について確認する機会を設ける。 							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に学校行事や生徒会活動の中で活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、主体性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「専門部の仕事を自覚し、責任をもって忘れずに取り組むことができる」について肯定的な回答をした生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、生徒総会、新入生対面式等の行事や専門部の常時活動の中で活躍する場をたくさん設け、振り返りをさせて次につなげる。 			
○地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ○いきいきからつつ育成事業を活用したキャリア教育の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での教育活動に対する生徒満足度を80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で地域での教育活動の充実 1年ふるさと探訪 2年職場体験 3年ふるさと企業訪問 							

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--